

■ 1. 「WOODRISE2017」の概要と目的など

第1回の「WOODRISE2017」は、フランスのFCBA（木材技術研究所）が主催となり、カナダのFPInnovations（森林・木材研究開発センター）と日本の建築研究所が共催参加者約1,300人というのかたちで2017年9月12日から15日までフランス・ボルドーコンベンションセンターにて開催された。

近年、世界各地で6階から20階建てまでの木造による中・高層の建築物の設計や建設が活発に進められている。各プロジェクトの中で専門家たちは、自らのノウハウや技術を駆使して「木」という材料が、「構造性能」「音響性能」「防火性能」などの機械的性能を有し、持続可能性などの環境面でも高い性能があることを実証してきている。また、併せて環境問題の改善策の一つである林産資源の活用についても多くの提案が行われている。

こうした状況の中で、WOODRISE2017は、中・高層木造建築物の設計や建設のために必要な材料・技術・工学に対する利用ニーズや将来性を展望する企業等を対象として、木造の需要や技術開発に関連した会議、テーマ別ワークショップ及び製品・構造認証、技術開発の展示会などのイベントを通して、事例や技術などの経験を共有することを主要な目的としている。

また、WOODRISE会議は、次のような明確な目標を達成することが掲げられている。

- ・ 持続可能な都市のダイナミックな低炭素環境を実現する中層・高層木造建築物の建設の地球規模の需要を確認する
- ・ 中・高層木造建築物の世界的レベルの科学、技術の優位性の証明
- ・ 経済的な開発の取り組みを認識すること、そして、自国の力量と循環型経済における国内資源の価値を高めるため、木材分野の新市場においてこれらをどのように実践するか。
- ・ 成長盛んな取り組みを民間と公共の投資家に結び付ける（開発事業者、土地所有者、賃貸者、営業担当、地域社会・・・）



写真左：ボルドーの会議場
写真上：会議風景

■ 2. 会期中に開催された主なイベント

大きく5つの会議や展示会などのイベントが開催された。

- ① 本会議（9月13日（水）～14日（木）開催） 「公共政策の効果」、 「木の技術的課題を解決するための科学と工学」、 「経済開発の可能性」など、大きな3つのテーマについて、各国の代表者から発表された。また、「森林資源と木材製品」というテーマの討論会も開催された。
- ② ワークショップ（9月14日（木）午後 開催） 「音響性能」、 「火災安全」「地震リスクの予防」など 3つのワークショップが同時に開催された。

③ 公開実験（9月15日（金）午前開催）

FCBA 機械性能研究所において、SILVATOWER の 1/3 縮小の建築システム模型の耐震実験が行われた。

④ 現場見学会（9月15日（金）午後開催）

中高層木造の建設現場や市内のプロジェクト等の見学会を行なわれた。

⑤ 展示会（ビジネスコンベンション）（9月13日（水）～15日（金）開催）

会期中、併設された3,000㎡の面積を有する展示会場で今回のテーマに関連する企業による多数の出展がなされた。



写真左：現在建設中のロンドンの中高層木造建築
写真上：コンベンション会場の企業展示

■ 3. 会議に参加した感想

「WOODRISE」は 2 年後、カナダで開催が決まっているとのことであり、4 年後は日本開催の可能性もある。日本も木造建築についてエビデンスを取りつつサイエンスとして着実に理解しつつあり、法的整備、木材供給や設計・施工体制も急速に整ってきている。また、日本は専門雑誌等による中高層木造建築に関する情報提供のスピードと質の高さも恵まれている。一方、日本は極東に位置する地理的条件から世界的動向に関して肌で感じる機会が限られている面がある。

持続可能な都市のダイナミックな低炭素環境を実現する中層・高層木造建築物の地球規模の需要や技術的・経済的展開を確認するという観点からみて「WOODRISE」のようなイベントは、今後も世界の動向を知ることができる非常に良い場であると考えます。



写真左：有名なマイケル・グリーンも参加
写真上：マイケル・グリーン設計、現在工事中の超高層木造建築物